

O-12-17

終末期ケアにおける緩和ケア認定看護師の役割を チーム医療の視点で振り返る

古河赤十字病院 看護部

○かりた きちこ
莉田 幸子

【はじめに】当院は急性期病棟で看取りをする環境であり、緩和ケア認定看護師として組織横断的に活動している。今回、咽頭痛で構音障害をもちケアを拒否する終末期患者とその家族への関わりの中で、病状から必要とする医療チームメンバーを調整しチームで介入できるよう意識した。当初、患者や家族はさまざまな不安や不満を抱えていたが、最期は患者・家族とも穏やかに、また医療者も達成感を得る看取りができた。そこで、症例をもとにチーム医療に向けた認定看護師としての活動・役割を振り返った。【目的】個々の患者に沿った緩和ケアをめざし、医療チームの中の緩和ケア認定看護師の役割を明確にする。【結果】患者には寄り添うことを基本姿勢にクローズドクエスションで対応し、家族には患者を心配する思いに焦点をあて関わった。得た情報から疼痛緩和のチームメンバー構成をした。緩和ケアの視点を伝え、お互いに得た情報はすぐに共有できるよう調整、他科医師や薬剤師の知識を得て主治医に薬剤や処置を提案、看護師には具体的な対応方法を指導した。そして、患者や家族、医療者間での感謝や労いの言葉は、懸け橋となり伝達した。患者のケア拒否はなくなり、家族は医療者に「ありがとう」、医療者間でも「頑張れた」「よかった」等の言葉がきかれた。【考察】緩和ケアの視点で早期介入したことで患者や家族の希望を的確にとらえられたこと、緩和ケア認定看護師が中心となり鎮痛という共通目標に向け進んだこと、速やかな情報共有ができたことは、患者の安寧を守り家族の安心感となり、信頼関係構築につながったと考える。また、各分野の専門知識や肯定フィードバックは、役割認識とチームを実感でき達成感につながった。今後も多職種によるチーム医療推進のため、緩和ケア認定看護師として調整役割を担っていく。